

欧州経済研修

旅の様子と感じたギャップ

有光茉里奈（95回）



ストラスブールの欧州議会にて

95回生の有光茉里奈と申します。今回、土佐高同窓会の38池田基金にご支援頂き、10泊12日の欧州経済研修に参加しました。所属大学の経済学部が主催するもので、内容は、協定校であるマルブルク大学及びストラスブール大学への訪問と、特別講義の受講、学生交流を中心とした、短期留学です。教授2名の引率のもとドイツ・フランスの4都市を巡りました。

【研修参加の経緯と目標】

まず、参加に至った経緯についてお話しします。私は今春より、千葉を拠点とする金融機関に総合職として採用されました。駐在を含む英語業務に携わりたいと考えています。しかしその裏で、非英語圏での学びを深める機会が（転職しない限り）無いという現実に直面しました。企業の海外拠点が英語圏外にないため、仮に駐在等が叶った場合でも、欧州の非英語圏へ赴く機会はありません。このような状況の中、勉強と観光を一度に体験できる貴重な好機を逃す訳にはいかないと感じ、38池田基金に応募しました。もし書類

選考に落ちたら、参加を諦めるつもりでした。しかしこのようなご支援を頂き、大変感謝しています。今回定めた目標は、「異なる法秩序・経済構造で動く世界に触れ、相対的に日本を理解する感性を育む事」、つまり「異文化体験を通じて規範や常識を疑うこと」でした。実際に、研修中にシヨッキングな出来事にも遭遇しましたが、楽しみながら受け入れることができた。

【現地での活動内容】

研修は、羽田空港からフランクフルト空港へ向かい、マルブルク（4日間）、マインツ&ストラスブール（4日間）、パリ（3日間）を巡りました。以下、各地での活動内容について説明します。



マルブルクの街並み

マルブルクは、人口約8万人の中規模都市で、観光地としてはまず選ばれないような田舎町です。丘を切り開いたような街で、道の高低差が激しく、歩く事まるで登山でした。現存最古のプロテスタント系総合大学であるマルブルク大学を中心とした大学都市であり、街の雇用ほとんどが学生と大学関係者に支えられています。街全体が一つの村のようであり、アカデミッ

クな雰囲気でした。私達は、大学だけでなく、旧市街地探索や、森林局の監督のもとでの植林体験、バイオマス発電所見学も行いました。



植林体験



バイオマス発電所



アルザスワイン工房

マルブルクは、人口約8万人の中規模都市で、観光地としてはまず選ばれないような田舎町です。丘を切り開いたような街で、道の高低差が激しく、歩く事まるで登山でした。現存最古のプロテスタント系総合大学であるマルブルク大学を中心とした大学都市であり、街の雇用ほとんどが学生と大学関係者に支えられています。街全体が一つの村のようであり、アカデミッ



ヴェルサイユ宮殿（右）
ストラスブール大聖堂（左）



交流会で食べた現地学生イチョンの料理
シュニッツェル（薄豚サシ風）は美味しかった

パリでは、最終日までの3日間を使ってグループ研修を行いました。私達は、エッフェル塔、シャンゼリゼ通り、凱旋門、オペラ座、ルーブル美術館、マレ地区、ヴェルサイユ宮殿など、王道の観光地を巡りました。その中でもヴェルサイユ宮殿が特に印象的でした。広大な敷地と荘厳な外観から、宮殿内に入りましたが、その規模や建築に圧倒されました。扉や天井が超特大サイズであるにも関わらず、ベッドや椅子のサイズが自分と同じであることに親近感を覚え、王室の人々の生活の息遣いが感じられました。生々しくも思えましたが、映像や歴史番組で見るよりも、歴史の厚みをよりリアルに感じられました。

【感想】

訪れた全ての場所で、実際に足を運んでこそわかる些細な気づきがありました。例えば、同じ国でも場所によって住民の性格や雰囲気は全く異なり、フランス内でもパリ、ストラスブール、アルザスでは全く違う印象を受けました。また個人的に一番驚いた事は、英語の通じない人の多さです。特にパリの小さなスーパーで話しかけた人に、英語の通じる人がほぼおらず驚きました。確かに、マルブルクやストラスブールでも、街中で英語を話せない住民に遭遇する事は数多くありましたが、いずれも接客業に従事する方は、概ね英語で意思疎通ができた印象でした。その上で特段観光客の多いパリだとしても、英語の通じない場面が少なからずある事に驚きました。また、

英語圏と比べて、肩身の狭い思いをする回数が多いように感じました。全体を通じて内向きで、クローズドな雰囲気があったように思えます。それも含めて、異文化体験でした。

【最後に】

学生最後の春休みを迎えた私にとって、この研修は何にも代え難い経験でした。事前に、引率の教授が「借金してでも参加するべきだ」と仰っていたのですが、言葉通りでした。キャリア観にもポジティブな影響があったと感じます。またこのような機会が広く開かれている事も大きなチャンスです。特に私は、38池田基金による奨学金制度がなければ、この機会を知りながらも参加を諦めざるを得ませんでした。「海外への旺盛な好奇心を有し、冠する土佐の名に叶おうとする者」を応援せんとする制度理念に強く共感するとともに、後輩にあたる皆さんにもぜひこれを活用して頂きたいと存じます。この文章が皆さんの参考となり、何かの一助になれば幸いです。



凱旋門前で
欧州経済研修の皆と（本人左端）

38 池田勲夫
土佐高同窓会関東支部基金

38回生有志による資金拠出により、同窓会関東支部に奨学金制度を新設
同窓会関東支部の若手会員を応援

- 同窓会関東支部に所属する若手会員を対象
- 返済不要の給付型奨学金
- 海外留学などの海外プログラムを対象

選考基準

- 海外への旺盛な好奇心を有する者
- 夢や目標のある者
- 母校や同窓会に対する思いのある者
- 冠する土佐の名に叶おうとする者

詳細は土佐中・高等学校同窓会関東支部のホームページに掲載
www.tosaka-kanto.org

留学支援基金
返済不要
短期もOK
詳しくはHPから